

## 会議の概要(議事録)

会議の名称	(番号) 3-08	平成25年度第5回すみだ環境共創区民会議		
開催日時	平成25年8月15日(木) 18時30分から20時00分まで			
開催場所	墨田区役所2階 21会議室			
出席者数	<p>【委員14人】          阿久沢委員 池田委員 宇田川委員 笠貫委員 小木曾会長          佐野委員 島崎委員 清水副会長 永岡副会長 野島委員          本間委員 森下委員 柳委員 横井委員</p> <p>【事務局3人】 環境保全課長、環境管理担当主査及び職員</p>			
会議の公開 (傍聴)	公開(傍聴できる)	傍聴者数	0名	
議題	1 すみだ環境の共創プラン基本目標3・5について 2 その他			
会議概要	<p>1 すみだ環境の共創プラン基本目標3・5について          緑と花のサポーターの活動状況の報告( 委員)          緑と花の学習園を中心に週2回(火曜日と木曜日)活動をしている。午前中は「緑と花のまちづくり推進地域制度・通称「まちなか緑化」の作業を行い、午後は学習園内で作業を行なっている。まちなか緑化では、これまで十間橋通り、錦糸町丸井前、新堅川橋橋台敷、鐘ヶ淵通り、プリメール柳島、押上二丁目町会、おしなり商店街、本所吾妻橋商店街、北十間川沿いの区内9ヶ所で行なっています。月1回、9ヶ所を回るようにしています。花の植替えは年4回を目標としています。サポーターの登録は約50人、活動は常時16～17人くらいで行なっています。25年度新たに向島一丁目町会、小梅一丁目町会が加わりました。共に常時6～7人のボランティアが参加してくれます。学習園の催し物に参加された方に、苗の配布を行っています。夏休みの自由研究のサポートとして、よしずの編み方、寄せ植え講習会、葉っぱのクイズラリー等を行ないました。サポーターも同じ顔ぶれで、年々年齢が上がっているため、新たなサポーターを募集して、仕事の充実を図っていききたい。</p> <p>緑と花のサポーターの活動報告( 委員)          花の数に比べてサポーターの人数が足りない。もっと、参加してもらいたい。</p> <p>2. 意見交換等における主な意見          苗の配布に際して、苗の育て方講習会、収穫、使い終わった古い土の再生等、体系的なプログラムで行なうことがベストだと思う。</p> <p>ふれあい館では、土づくり、栽培、収穫等を体験できるよりどりみどりプログラムを行っている。学習園とふれあい館で連携できる方法を考えることも必要だと思う。</p>			

都市景観という観点から何か意見がありましたら、お願いします。

墨田区は路地が多い独特のまちです。路地裏に緑を増やしてもらいたい。路地裏園芸は大事だと思う。日々の緑は大切で、路地裏景観は墨田区の独特の都市空間を造っている。路地裏に苗を配って、緑からまちづくり、環境に繋がることメインテーマではないかと思う。

以前、杉並区で人通りの少ない路地裏で花を育てる等の「花咲かせ隊」制度がありました。従来からのフラワー作戦を強化し、街を美化する取り組みを進める等で、犯罪発生件数を激減させました。墨田区は緑比率等、23区では下から数えた方が早いのですが、唯一、墨田区は空き巣が少ないということが、トップレベルにあります。それは路地園芸が原因ではないかと思います。新聞にも掲載されました。

以前、道路公園課主催の公園ボランティアをやっていました。公園にコミュニティで花を作っていこう、育てていこうと活動していた。しかし、ボランティア間のネットワーク・交流がなかったので、1年、2年経つと人数が減っていく。仕事をしていると、平日の活動にはなかなか参加できない。土曜日、日曜日に参加するよう調整した。ボランティア団体間に繋がりがあると、別の団体に移ることもできる。

屋上緑化の難しさは、どんなところにあるのか。

防水の問題が一番。建物の荷重の問題も考えなければならない。日本は雨が多いにも関わらず、樋が少ない。屋上の面積に比べ、穴の数が少ない。穴が詰まると、雨水が建物にしみ込む可能性がある。屋上緑化では土を使わず、水耕栽培という方法もある。屋上緑化には、断熱効果が期待できる。

雨水利用については、一度地下のタンクに集め、上に汲み上げている。もっと、効果的な方法はないのか。

雨水利用については、民間の建物は、公共施設に比べ敷地が狭いので、雨水を溜めるにしても基礎にお金をかけて溜めざるを得ない。たとえ隣の隣地境界が20cmしかなくても、お互いに協力すれば、たて20cm、よこ20cmでも長さが10mのタンクを設置できれば、相当量の雨水を溜めることができる。近隣同士が話し合いでわずかなスペースにタンクを設置することで、雨水利用とコミュニケーションの充実に役立つ。東京都の下水は合流式となっているが、一方で浸透枡も進めている。

8月7日、東京23区とことん討論会に参加した。そこでは、主にプラスチックごみについて話がされた。製造段階から考えるべき問題で、拡大生産者責任を基本に制度の確立を求めていくという結論であった。

墨田区の環境の現状を取りまとめ、今後どのようなことをやっていくのか、体系的にプログラムを作ることが重要だと思う。場合によっては、環境ふれあい館と連携する必要もある。啓発活動を行うにあたっては、参加者が喜びを感じられ、関心を持ってもらえるようにしていかなければいけない。環境フェア等を、結果の公表・発表の場として活用する。雨水、リサイクル、ごみの問題等、幅広があるので、一つひとつ掘り下げていくとときがないので、体系だったシステムの中で墨田区の環境を広めていく、区民に周知する、区外の認知を得ること等、行っていけたらと思います。

以前、母が学習園から苗をよく貰ってきた。しかし、育て方がわからないので、枯らしていた。ただ、苗を配るのではなく、上手な育て方等、基本から講習会等を行う必要がある。

いかに興味を持ってもらうかが大切なことだと思う。

緑化について、最近、水辺を活かした親水公園等、沢山の方が利用していて、大変良いことだと感じている。今後、区としてどのように増やしていくのか、聞きたい。また、講習会等の開催については、区民の日常に入っていないと広まっていかない。スーパーや駅前、まつり等、人が沢山集まる場所で、広めていく必要がある。小・中学校でどの程度の環境教育が行なわれているのか、現状を把握して、不足している部分を区民会議で補っていけば良いと思う。

昨年7月19日に開催した平成24年度第4回すみだ環境共創区民会議で、墨田区の小・中学校における環境教育・環境学習について、教育委員会職員から話を伺った。主なポイントは、墨田区教育委員会では、平成14年度から子供たち一人ひとりに自分自身が環境に深く関わる存在である自覚を促す趣旨から、小学校4年生の全児童に環境副読本を配付し、環境教育を推進している。その結果、子供たちが自分自身の問題として環境を捉えることができる内容となっている。副読本については、毎年細かな数値を見直して改定をしている。東京都教育委員会としては、平成21年度から6月を「CO2削減アクション月間」と定め、墨田区でも全小・中学校で推進している。主に小学校5年生、中学校1年生で実施をしている。この月間中、大変よくできた学校には表彰があると聞いている。また、各学校においては、理科、家庭科又は総合的な学習等の時間において環境に関する学習を行なっている。また、教科を離れた取り組みも行なっており、ごみの分別、ごみの減量化、空き缶・ペットボトルのキャップ等の回収、生ごみからの堆肥づくり、ピオトープ、動物の飼育、学校農園、地域清掃等がある。

基本目標5に「こどもエコクラブの活動支援」とあるが、墨田区内に登録したこどもエコクラブは何団体あるのか。

墨田区内の環境省管轄のこどもエコクラブは1団体だと思う。区は関与していない。

1団体であれば、支援が本当に必要なのか疑問を感じる。それならば、墨田区ならではの支援として、例えばすみだ自然環境サポーターのジュニア版を作った方が良い。

### 3 その他、情報提供等

#### (1)すみだ環境共創区民会議 第1回実施委員会の報告(事務局)

日時:8月7日(水)午後6時30分～午後8時

会場:区役所12階 121会議室

10月12日(土)13日(日)開催のすみだまつりに区民会議として参加することを再確認した。

ただし、その内容については、昨年作成したパネルの展示とプラス とすることを話し合ったが、詳細は時間切れとなってしまった。第2回実施委員会を9月11日(水)午後6時30分から区役所12階121会議室で開催する。(開催通知を机上配付)

#### (2)第9期荒川をよくする墨田区民会議第1回現地見学会について(会長)

8月22日(木)午後1時～5時

八広水辺公園、東綾瀬公園、荒川ビジターセンターの見学

参加希望者7名が参加の予定。

#### (3)第18回東京23区とことん討論会の報告(委員)

	<p>8月7日(水)午前10時00分から午後7時  世田谷区成城ホール  実行委員会から次回開催を墨田区でと、連絡を頂いている。今後、相談させていただきたい。</p> <p>(4)その他</p> <p>実施委員会で、「すみだまつりに「ちきゅうくん」を展示してはどうか」と検討されたが、その件はどうなったのか。</p> <p>ちきゅうくんの展示については、何も決定していない。</p>
所 管 課	区民活動推進部 環境担当 環境保全課 環境管理担当 内線 5463